

アメリカザリガニの巣穴による

水田畦畔の漏水被害の予防・対処方策

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 農業工学研究室 廣野貴司

アメリカザリガニの被害から田んぼを守ろう！

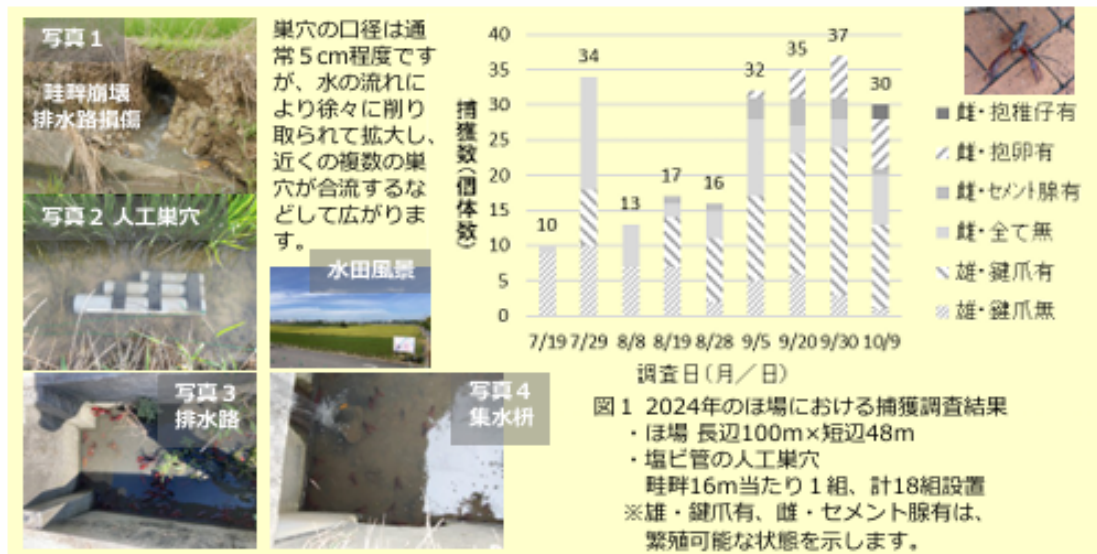
－アメリカザリガニの巣穴による水田畦畔の漏水被害の予防・対処方策－

開発の背景・ニーズ

愛知県西三河地方の安城市の水田では、大量に繁殖したアメリカザリガニ（以下「ザリガニ」という。）が畦畔に多くの巣穴を掘ることで、漏水被害が深刻化している地域があります（写真1）。そこで、漏水被害の予防・対処方策の策定に向けた試験研究に取り組んできました（2021～2025年度）。※本地域の水稲栽培は不耕起V溝直播栽培（乾田直播栽培の一つ）で、作付けは水稲・麦・大豆を2年3作で輪作しています。

成果の内容

- ①冬季代かきを行うことで、鎮圧整地よりも田面の土壌硬度が増して巣穴を開けられにくくなり、ザリガニの巣穴被害を軽減できる効果が期待できます。特に大規模な漏水被害に発展しやすい排水路沿いのほ場で冬季代かきを行うことが効果的です。
- ②畦塗りなど畦畔の管理を入念に行うことも巣穴被害の予防に役立ちます。
- ③水稲作付け時の捕獲には、塩ビ管の人工巣穴（写真2）が効果的です。抱卵個体や抱稚仔個体が多く出現する9月から落水の時期がより効率的です（図1）。
- ④落水時に排水路や集水橋に留まっている大量のザリガニを一斉駆除することで、効率的にザリガニの個体数を減らすことが可能と期待されます（写真3・4）。
- ⑤湛水中のほ場3,000㎡当たり少なくとも100～140個体以上のザリガニが生息していると推定されました。ほ場の地下深くに巣穴を掘って越冬する個体も多くいます。
- ⑥移植栽培では石灰窒素にザリガニの防除効果が認められており、代かき時にこれを使用することでザリガニの個体数を減らすことが可能と考えられます。



今後の試験研究計画

水田畦畔の漏水被害の予防・対処方策を取りまとめた手引きを作成し、生産現場にフィードバックする予定です。